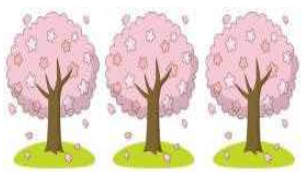


高取小だより

令和7年5月16日



三本桜

第7号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
5月の目標：けがに気をつけよう

児童会長 所信表明

こんにちは。前期児童会会長になりました、6年2組のNYです。

私は、この学校を仲が良く、助け合いのできる学校にしたいです。そのために、二つのことを頑張ります。

1つ目は、全校遊びです。全校遊びをすることで、仲が良い人をたくさんつくることができると思うからです。今年も全校遊びを企画します。楽しみにしてください。

2つ目は、エコキャップ運動です。キャップをたくさん集めることで、多くの人の命を救えるからです。去年は、90,429個のエコキャップを集めることができました。去年の数を超えるには、もっと皆様のご協力が必要です。今年も企画するので、家に1つでもキャップあれば、持ってきてください。よろしくお願いします。

高取っ子の力を合わせて、仲が良く、助け合いのできる学校を目指していきます。一緒にこの高取小学校を、もっともっと明るくしていきましょう。

児童会長をはじめ、児童会執行部がリーダーシップを発揮して、全校児童みんなによりよい学校をつくっていつてくれることを期待しています。

サンマを大切に・・・

子どもたちを取り巻く環境が変化し、「3間（サンマ）」が減少している、失われた…」といわれて久しく時間が過ぎました。「3間（サンマ）」とは、つまり、子ども同士で遊ぶ時間、遊ぶ場所（空間）、心を開いて語り合える仲間のことを指します。

高取小学校では、子どもたちに教科の学習内容を身に付けさせるだけではなく、人との関わり、仲間との関わりから社会生活に必要な力を育てていく役割も担っています。あらゆる教育活動を通じて、「学び合う時間・空間・仲間」を土台にして「自ら学びつづける」子どもの育成を目指します。



子どもたちの読解力を鍛えるために

読解力は、国語の授業中だけではなく、生きていく上で常に必要となる力です。日常生活においても、住宅や携帯電話の契約書、税金や保険の手続き書類、友人とのメールやSNSでのやりとりなど、正しく理解すべき文章は身の回りにあふれています。

仕事でも、上司や同僚、取引先からのメール、企画書、仕様書、発注書、契約書など、様々な文章を読む機会があるでしょう。それらを読んで理解する力がないと、思わぬ誤解を招いたり、コミュニケーションがとれなかったり、仕事自体が立ち行かなくなったりしてしまいます。

文章だけでなく、会話にも読解力は必要です。「回りくどい言い方をしているけれど、この人の本音は違うな」「説明が下手だけれど、要するにこういうことを言いたいんだな」などと、相手の意図をこちらで察するということです。

たとえば「大丈夫」という言葉は、状況次第でさまざまな意味にとれるため、読解力がある言葉だと言えるでしょう。転んだ子どもに「大丈夫？」と聞いて、相手が笑顔で元気よく「大丈夫！」と答えたら、「そんなに痛くなかったよ」だとか「問題ないよ」とかいった意味になるでしょう。しかし元気がなく口数が少なくなった同僚に「大丈夫？」と聞くという状況では、相手がいくら「大丈夫です！」と言ったとしても、それは心配させまいという気遣いだったり、強がりだったり、本当は大丈夫ではない、と読み解くほうが自然でしょう。

(中略)

友人や恋人、家族や同僚といった身近な人たちとコミュニケーションをとる際には、言葉や表情、態度、場の流れなどから相手の伝えたいことをきちんと理解できないと、人間関係がこじれてしまいます。反対にそれをきちんと読み解くことができれば、人間関係はより良好になることでしょう。

社会に出るあなたに伝えたい なぜ、読解力が必要なのか 池上彰 著 講談社 出版 より

子どもたちの中には、コミュニケーション力不足から、些細なトラブルを起こしてしまう子がいます。また、予測困難なこれからの時代を生き抜いていくために必要な力の1つにコミュニケーション力が挙げられます。

そこで、授業をはじめ、日々の教育活動の中で、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった4つの言語活動をバランス良く取り入れることで、コミュニケーション力の向上を図っていきたいと考えます。

さらに、思考力の育成、そして言語能力の向上につなげ、豊かな心を育んでいくことを目指します。

ご家庭におきましても、今以上にお子さんとコミュニケーションをする時間を取り入れて、子どもたちのコミュニケーション力の向上を図っていただくようお願いします。

